

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中学校	校長氏名	木村 通幸	生徒指導主事氏名	濱野 綾子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

## 取組事例名 『合唱コンクールを成功させよう～全校合唱に挑戦しよう～』

## 取組のねらい『キーワード：歌声の響く学校』

昨年度の 2 学年は、生徒指導上課題をもっている生徒が多く、学校生活も落ち着かない状態だった。問題行動の約 65% をこの学年が起こしており、不登校率も 5% と極めて高かった。その反面、この学年の生徒は良い意味でもエネルギーに溢れ、学校行事に喜んで参加する姿があった。特に文化祭の合唱コンクールでは、学級が一丸となり合唱を創り上げることに情熱を注ぐことができていた。

今年度、本校のめざす学校像の一つに「歌声の響く学校」が加わった。特別活動の目標として、「集団や社会の一員として自主的・実践的態度を育てる。」とあるが、この目標を達成するため、合唱コンクールに、これまでになかった全校合唱を取り入れた。最上級生にリーダーとしての役割を担わせ、日頃の学校生活では体得できない充実感を味わわせることをねらいとした。

## 取組の具体的内容『キーワード：先輩から学び、より団結』

- ・合唱コンクールは、中学校時代において思い出に残る行事である。1 年生にとって初めてとなる合唱コンクールの練習に入る前の学級活動の時間に、昨年度の 2・3 学年の合唱ビデオを視聴させ、合唱コンクールの位置づけを伝える。
- ・話し合い活動を通して、自分が合唱コンクールでできる役割は何かを考え、積極的に取り組む姿勢をもたせる。
- ・今年度は全校合唱を取り入れ、より互いに協力し、より団結することを目標としていることを伝える。また、上級生のクラスと合唱交流を行うことで、先輩から合唱の素晴らしさを学ぶ。

## 取組の課題・創意工夫『キーワード：新たな試み』

学校全体が落ち着きを取り戻してきている中で、新たな試みを取り入れる時期としては適切であったが、全校合唱については、生徒主体で取組が進められなかったことが課題である。

## 取組の成果（効果）『キーワード：全員が MVP』

- ・合唱コンクールを通じて、各々が学級や学校への帰属意識を高めることができた。
- ・合唱コンクールを終え、全員が振り返りを行ったが、一人一人の見える活躍、見えない活躍が大きな力になることを感じさせる評価をすることができた。

## 〔生徒の振り返り〕

- 3 学年男子：全校合唱では 1・2 年生の歌声に負けないよう、3 年生がしっかり歌わなければという気持ちをもって歌うことができた。この全体合唱を来年度も続けてほしい。
- 2 学年男子：僕はクラスの合唱で指揮をした。みんなが頑張ってくれたので、学年最優秀賞がとれた。3 年生になったら、ぜひ全校合唱の指揮を試みたい。
- 1 学年女子：朝や放課後などにみんなでパートごとに分かれて練習をした。最初のほうは声が出ていたけれど、だんだん声小さくなってしまった。けれど、一生懸命歌っている人がいるので、もっと一生懸命歌わないといけないと思った。本番では練習のときのように声は出せなかったけれど、がんばってくれる人もたくさんいたのでよかった。自分たちよりも、先輩の声がものすごく大きくて、ずっと感動していた。また、小学校のときは学年合唱しかしたことがなかったので、全校合唱はすごいと思った。また全校で歌いたい。

## 今後の展開『キーワード：来年度へつなげる』

- ・文化委員が合唱曲の歌詞を模造紙に書いたり，上級生のクラスとの合唱交流の調整を行ったり，委員としての仕事を全うできた。全校合唱についても，今後は文化委員会の取組に移行し，生徒が主体的に取り組む活動にしたい。また，文化委員を中心とするリーダーの育成を図り，今年度の反省を生かし，来年度も全校合唱を引き継いで実施したい。
- ・個人や学級で振り返りを行うことはできたが，先輩として後輩に何を残すことができたかを改めて振り返らせることが十分ではなかった。アドバイスやメッセージを何らかの形で残すことができればよかった。

## 他校へのアドバイス『キーワード：大規模校の強み』

本校は全校生徒632名の大規模校であるが，それ故，全体を詳細に把握することは非常に困難である。しかしながら，大規模校だからこそできる取組は何かを考え，今年度，迫力ある全校合唱を取り入れることができたことは，強みを生かした取組だといえる。

